

苫小牧市総合戦略推進会議

令和5年度第1回会議資料

令和5年12月21日（木）16時から
【苫小牧市役所5階 第2応接室】

01 | 人口ビジョン及び総合戦略について

1. まち・ひと・しごと創生総合戦略について

【国が提言する課題と目標】

課題

2008年に始まった人口減少は、加速度的に進んでおり、これによる消費・経済力の低下は、日本の経済社会に対して大きな重荷となる。

目標

人口減少に歯止めをかけ、将来に渡って活力ある日本社会を維持する。

【目標達成に向け、施策を総合的かつ計画的に実施するために】

国

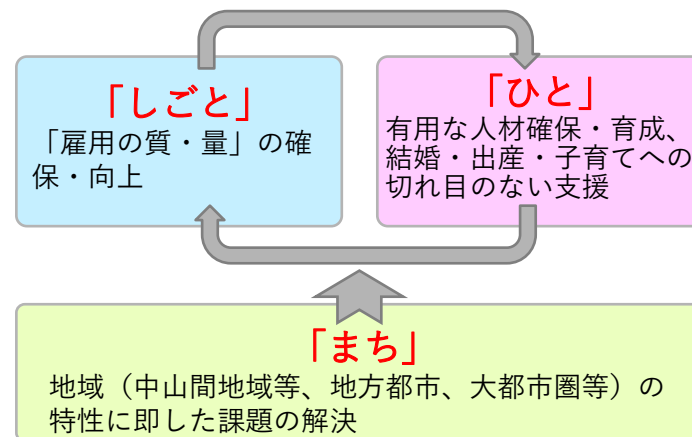
長期ビジョン：2060年に1億人程度の人口を確保する中長期展望
総合戦略：第1期(2015～2019年度)、第2期(2020～2024年度)
の政策目標・施策

※まち・ひと・しごと創生総合戦略を抜本的に改訂し、2023年度から2027年度までの5か年の新たな総合戦略(デジタル田園都市国家構想総合戦略)を策定

地方

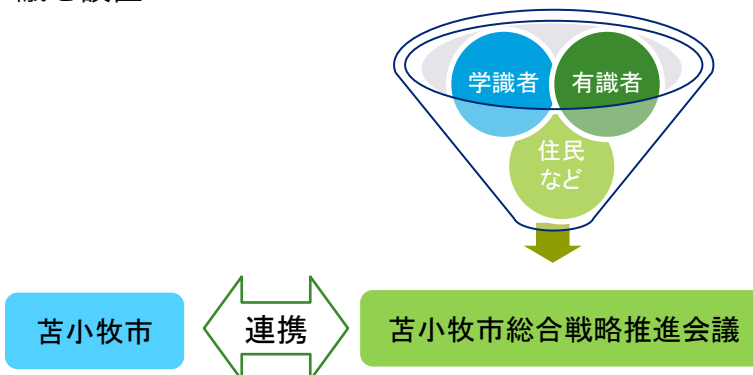
地方人口ビジョン：自治体の人口動向・将来人口推計の分析や中長期の将来展望
地方版総合戦略：第1期(2015～2019年度)、第2期(2020～2024年度)の
各自治体の政策目標・施策

「しごと」と「ひと」の好循環 それを支える「まち」の活性化



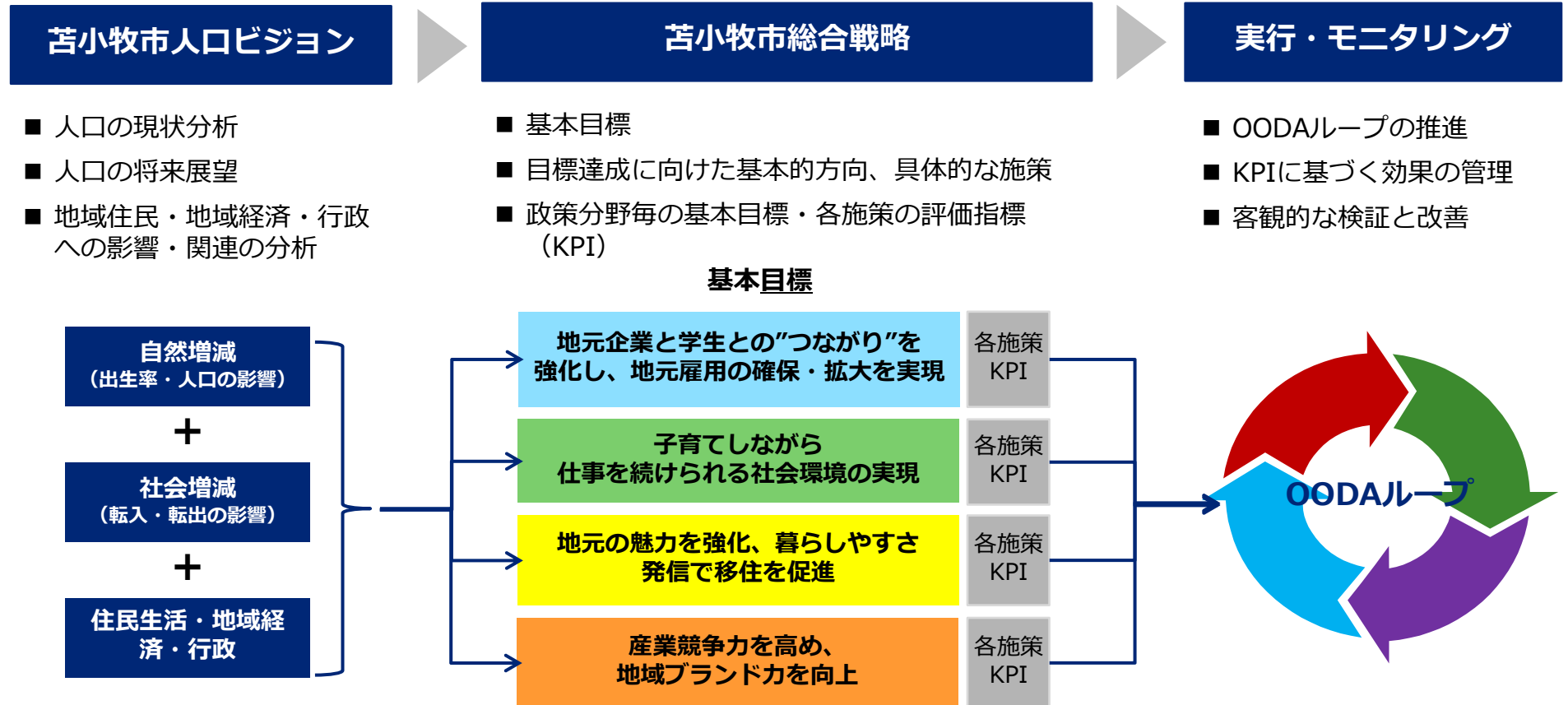
【本市の策定・推進体制】

産学官金などの有識者、性別、年齢など幅広い市民の協力・参画を得るために総合戦略推進会議を設置



2. 人口ビジョン実現のための総合戦略策定と進行管理

人口ビジョン・総合戦略からモニタリングに係る全体像



3. 人口ビジョンにおける将来展望

【①合計特殊出生率の目標】

平成28年（2016年）に閣議決定した「ニッポン一億総活躍プラン」において「希望出生率1.8」が掲げられた。
 北海道人口ビジョンにおいても令和12年（2030年）又は令和22年（2040年）に合計特殊出生率が1.8になると仮定して人口を推計。このことを踏まえ、本市の合計特殊出生率の目標値を1.8とする。

合計特殊出生率（自然動態）

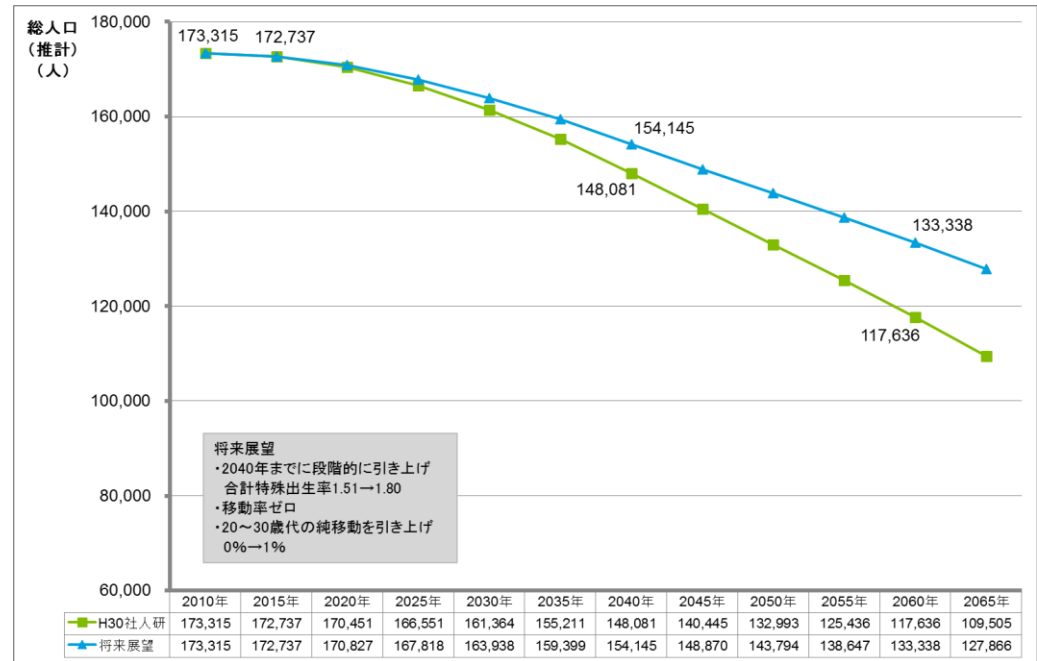
2040年までに段階的に引き上げ
 （合計特殊出生率 1.51⇒1.80）

【②純移動の目標値】

転出が多い20歳代と、今後の子育て世代となる可能性の高い30歳代において、平成22年（2010年）～平成27年（2015年）までの人口の純移動率が、-0.02%とほぼ均衡していることから、本市の純移動率の目標値を第1期と同様に20歳代～30歳代で1%とし、その他の年代でゼロとする。

純移動率（社会動態）

移動率ゼロ（転入転出が均衡）
 +
 20～30歳代の純移動を引き上げ（0%⇒1%）



国が現状の人口動態を基に作成した見込み

総合戦略で掲げた各施策を進め①と②を実現した場合

現在	社人研の推計値		将来展望の推計値	
2023年	2040年	2060年	2040年	2060年
167,106人	148,081人	117,636人	154,145人	133,338人

※令和5年10月末現在

現在の人口167,106人 ⇒ 令和22年（2040年）15万人を維持
 令和42年（2060年）13万人を維持

4. 本市の現状

【加速する人口減少の現状】

年次	世帯数	人口				自然動態			社会動態		
		総人口	増減数	老年人口 (65歳以上)	高齢化率	出生	死亡	増減数	転入	転出	増減数
平成30年 (2018年)	88 545	171 811	△ 562	48 603	28.29%	1 243	1 859	△ 616	6 122	6 070	52
令和元年 (2019年)	89 460	171 242	△ 569	49 365	28.83%	1 146	1 927	△ 781	6 166	5 978	188
令和2年 (2020年)	89 992	170 205	△1 037	49 973	29.36%	1 152	1 970	△818	5 772	5 997	△225
令和3年 (2021年)	90 525	169 528	△677	50 538	29.81%	1 051	1 962	△911	5 965	5 731	234
令和4年 (2022年)	90 867	168 299	△1 229	50 634	30.09%	959	2 151	△1 192	6 006	6 060	△54

【出生についての市民意識】 ※市民アンケートの結果より抜粋（2019年）

※人口は各年12月末現在。（外国人住民を含む。）

理想の子どもの数	2人 3人	55.3% 28.8%
現在の子どもの数	0人 1人	40.5% 22.6%
子どもの数が理想に比べて、少ない理由	お金がかかりすぎる 心理的・肉体的負担が大きい 手助けする人がいない	62.8% 20.4% 17.7%
子どもの数が増えると思う施策・対策	経済的負担の軽減 安定した雇用の確保 職場環境の整備	56.8% 42.4% 37.0%

出生数が年々減少しており、**令和4年度は、前年と比較し約100人減少**している。

多くの方が、2～3人の子どもの欲しいと思っているものの、**経済的に不安を抱え踏み出せていない傾向**がある。
現状の社会情勢においては、出生数が今後も減少していくことが予想されるため、**子育てしやすい環境の整備が重要**となっている。

出産・子育て、雇用対策に結びつく施策をオール苦小牧で展開することが必要

5. 本市の課題と方向性

①就職時期の若年世代の転出超過が目立つ。
主な転出先は、札幌市や首都圏である。

⇒市内における雇用環境の維持・向上、住みやすさの改善により、若年層の転出を抑制する。



基本目標 1
地元企業と学生との“つながり”を強化し、
地元雇用の確保・拡大を実現

②現在の合計特殊出生率を維持しても人口は増えない。
若い女性人口は減少傾向にある。
出生数が増えない主な理由は、子育ての経済的負担である。

⇒子育て・教育のしやすい環境を整備し、子育ての経済的負担感を減らすことで、結婚・子育て世代（特に女性）の転入を増やし、合計特殊出生率を向上させる。



基本目標 2
子育てしながら仕事を続けられる社会環境の整備

③活気がない、交通利便性が悪い、PRするものがないといった声があり、地域コミュニティの活性化や生活利便性の向上といった生活環境の改善が課題である。

⇒生活環境を改善し、苫小牧市で暮らすメリットをPRすることで、交流人口やUIターンを増加させる。



基本目標 3
地元の魅力を強化、暮らしやすさ発信で移住を促進

④今までの人口の維持は、製造業などの企業誘致の影響が大きいが、人口減少局面をむかえる中で、さらなる競争力向上が必要である。

⇒国際的な競争力を持つ市として、企業誘致などの活動を充実させて、更なる民間投資を呼び込む。



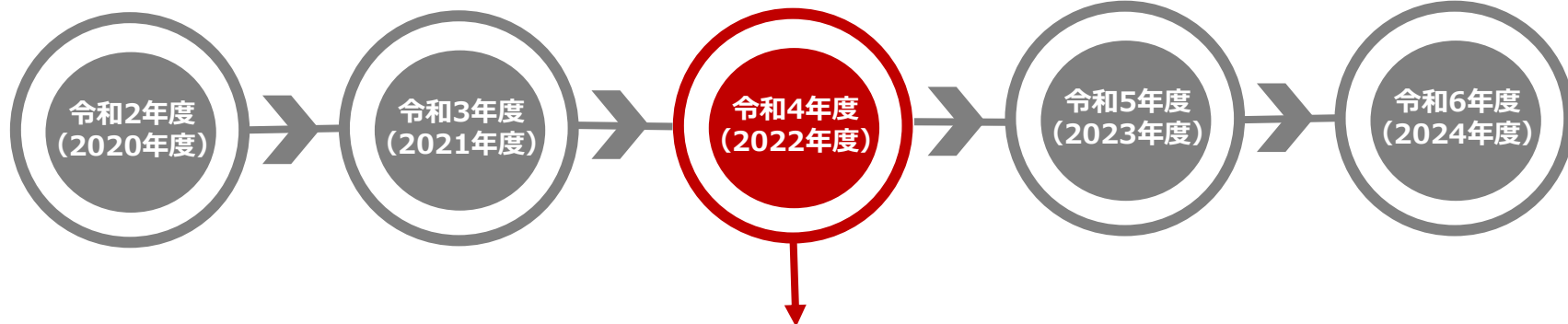
基本目標 4
産業競争力を高め、地域ブランド力を向上

02 | 第2期総合戦略（改定版）について

1. 中間見直しの実施

苫小牧市総合戦略【第2期】の計画期間

令和2年度（2020年度） ～ 令和6年度（2024年度）



背景

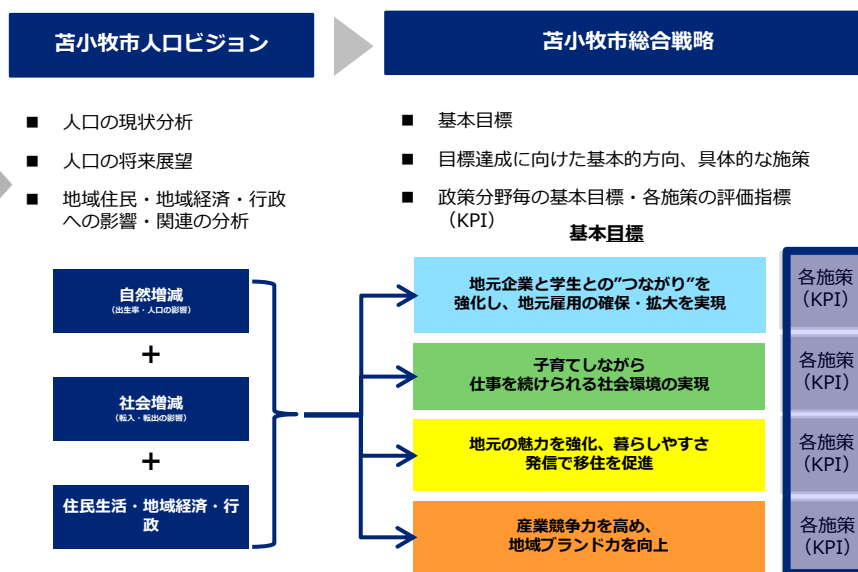
第2期苫小牧市人口ビジョン及び総合戦略は令和2年3月に策定され、令和6年度までの5年間を期間として定めている。

第2期が開始するとほぼ同時に新型コロナウイルス感染症の流行に伴う緊急事態宣言が発令されており、現在まで感染拡大防止の観点から総合戦略で定める一部の事業で中止や規模の縮小などの影響が出ている。

令和4年度は計画期間の中間年であり、カーボンニュートラル等の要請や新型コロナウイルス感染症の影響といった社会経済情勢の変化を踏まえ、第2期総合戦略の見直しを実施。

中間見直しの内容

- 苫小牧市人口ビジョン、苫小牧市総合戦略の基本目標は変更しない。
- 4つの基本目標に紐づく各施策や事業、数値目標、KPIについて、中間見直しを行う。



03 | 令和4年度の取組状況について

1 地元企業と学生との“つながり”を強化し、地元雇用の確保・拡大を実現

現状と課題

- ・ 市外の転出の統計データを年齢別にみると、大学進学や就職を機に多くの若者が市外（特に札幌市や首都圏）へ転出していることがわかる。
- ・ この状況から若年層（20歳代）の転出抑制及び転出者の再転入を促す雇用環境の充実が課題となっている。

基本目標と 施策の基本的方向

- ・ 市内の高校・大学等に通う学生が地元企業を知り、興味を持つ機会を設け、企業の認知度を高める。
- ・ 若者をはじめ、働きたい人が働くことができ、地元企業の雇用を確保・拡大できるよう支援するとともに、市内創業者（起業家）の創出・育成を図る。
- ・ Society5.0の実現に向けた未来技術の活用を促進する。

基本目標における数値目標

項目	H30基準	R2実績	R3実績	R4実績	R6目標	達成状況
新規雇用創出数（人）	46人	累計34人	累計79人	累計148人	累計230人	64.3%
管内学生の管内事業所就職割合（%）	45.5%	48.3%	45.9%	45.5%	50%	91.0%
新規創業件数（件）	12件	累計22件	累計43件	累計77件	累計125件	61.6%

基本目標

地元企業と学生
との“つながり”を
強化し、地元雇用
の確保・拡大
を実現

施策の基本的方向

1-1

若者の雇用機会の確保・拡大

1-2

学生と地元企業との“縁づくり”促進

1-3

創業支援

1-4

Society5.0実現の推進

施策1

若者の市内就職の促進



- UIJターン希望者等の市内就職に向け、都市部で合同就職説明会を開催し、市内企業の人材確保を支援するとともに、企業で行う職場体験や実務研修などの実施により、若者の市内就職を促進する。
- 地域の中小企業等の人材確保及び首都圏から本市へのUIJターンによる就業・起業の促進を図る。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標 (KPI)	H30基準	R 2実績	R 3実績	R 4実績	R 6目標	達成状況
合同就職説明会事業	内定者数(人)	9	累計0	累計7	累計19	累計40	47.5%
若者人材育成事業	就職者数(人)	6	累計7	累計16	累計23	累計30	76.7%
若者地元定着促進事業	登録者数(人)	—	累計10	累計28	累計53	累計50	106.0%
苫小牧UIJターン新規就業支援事業	北海道のマッチングサイト求人掲載数(件)	—	23	14	24	100	24.0%
介護人材確保支援事業	就職者数(人)	12	累計15	累計30	累計51	累計75	68.0%
介護職員育成支援事業	介護職員育成支援人数(人)	29	累計35	累計98	累計139	累計200	69.5%

施策2

学生と地元企業との交流・連携機会の創出



- 無料就職マッチングサイトにより、市内外の学生をはじめ、求職者に市内企業の魅力や求人情報を広く周知する。
- 高校生等を対象とした職場見学とバスツアーを開催するなど、学生と地元企業が出会う機会を設ける。
- 地元企業と連携し、小学生を対象とした疑似的な就労体験イベントを実施する。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標 (KPI)	H30基準	R 2実績	R 3実績	R 4実績	R 6目標	達成状況
就職マッチング支援事業	掲載企業数(人)	63	308	427	517	450	114.9%
就業チャレンジ支援事業	参加者数(人)	289	累計39	累計133	累計272	累計890	30.6%
キッズタウン開催事業	参加企業・団体数(社)	24	—	—	—	27	—
関係機関と連携した各種取組の展開	参加者数(人)	355	累計42	累計111	累計506	累計1,200	42.2%
市内大学インターンシップ支援事業	長期・有償のインターンシップ参加学生数(人)	—	—	—	累計37	累計105	35.2%

施策3

苫小牧における創業支援



- ・ 苫小牧市内での創業希望者に対して、創業前後に必要な支援を実施する。
- ・ 関係する機関（商工会議所、金融機関等）と連携し、創業希望者に対して支援を行う。
- ・ 女性のエンパワーメントや潜在層の起業支援、起業後の交流の場を設けるなど、女性活躍に向けた取組を促進する。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標（KPI）	H30基準	R2実績	R3実績	R4実績	R6目標	達成状況
創業サポート事業	新規創業セミナー参加者数(人)	69	54	48	65	72	90.3%
創業等相談窓口の機能強化	相談件数(件)	825	累計9,18	累計1,627	累計2,894	累計4,500	64.3%
女性活躍促進事業	事業参加者数(人)	—	—	130	263	150	175.3%

施策4

Society5.0の実現に向けた技術活用の支援



- ・ 全国的に労働人口の減少が進む中で、市内企業が抱える課題・ニーズへの解決や新規事業を創出するため、先進的な技術やサービスを導入する企業を支援する。
- ・ 市の取組として、定型業務へのRPA導入、問い合わせ業務のAI化などにより業務効率化を図る。
- ・ 安全・安心なまちづくりのさらなる取組として、消防活動のICT化を検討する。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標（KPI）	H30基準	R2実績	R3実績	R4実績	R6目標	達成状況
苫小牧イノベーション活性化事業	補助件数(件)	—	9	13	16	30	53.3%
行政サービスのICT化	業務削減時間(年間)(時間)	—	1,400	1,500	2,670	1,700	157.1%
消防活動のICT化	飛行型偵察・監視ロボット、導水ロボット導入数	—	—	—	1式	1式	100.0%

2 子育てしながら仕事を続けられる社会環境の整備

現状と課題

- ・現在の合計特殊出生率を維持しても人口は減ることから、合計特殊出生率をさらに上げ、出生数を増加させなければ、人口減少の抑制は難しい。
- ・出産や子育てしやすい環境を整備するとともに、子育ての経済的負担感の軽減が課題となっている。

基本目標と
施策の基本的方向

- ・子育ての負担を軽くする社会の実現を目指し、世代や性別を超えた子育て支援を推進する。
- ・ワーク・ライフ・バランスの推進を図り、働きやすい環境を整備する。
- ・社会の変化に対応する体験学習の機会、地域資源をいかした体験プログラムの充実により、子育てにとって良質な環境を提供する。

基本目標における数値目標

項目	H30基準	R2実績	R3実績	R4実績	R6目標	達成状況
合計特殊出生率（-）	—	⇒	⇒	⇒	1.8	—
子育て環境や支援の満足度（5段階評価）	2.9	⇒	⇒	⇒	3.3	—

基本目標

子育てしながら
仕事を続けられる
社会環境の整備

施策の基本的方向

2-1

仕事と子育ての両立支援

2-2

出産・子育てしやすさを実感できる支援

2-3

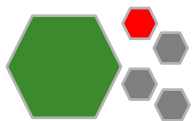
苦小牧らしい教育プログラム形成支援

2-4

ワーク・ライフ・バランスの促進

施策5

ワーキングマザー＆ファザーの子育て応援



- ・ 子育て中の母親・父親向けに講座の実施や出産・育児と両立に向けた支援することで、出産・子育てを理由とした離職を減らす。
- ・ 子育ての物理的・経済的な負担を軽くすることで、「子どもが欲しい」「もう一人産みたい」の希望をかなえる。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標 (KPI)	H30基準	R2実績	R3実績	R4実績	R6目標	達成状況
父子健康手帳交付事業	父子健康手帳の交付率(%)	—	96.7	97.7	97.3	100	97.3%
	子育て応援教室の参加組数(組)	24	41	40	53	50	106.0%
小規模保育施設整備事業	小規模保育施設の設置数(施設)	6	9	11	12	15	80.0%
	小規模保育施設の入所児童数(人)	117	174	219	231	300	77.0%
なでしこ就業応援事業	就職者数(人)	19	累計12	累計26	累計55	累計85	64.7%
放課後児童クラブの充実	待機児童数(人)	3	0	0	0	0	100.0%
多子世帯給食費助成事業	支給者数(人)	—	443	426	416	430	96.7%

施策6 子育て支援・保育サービスの充実



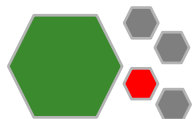
- 全ての子どもが心身ともに健やかに成長できる環境整備を図り、地域社会全体における子育て支援事業の充実を推進する。
- 多子世帯家族にとって負担の大きい、保育料の無償化（3人目）や不妊治療及び不育症に係る助成を行うなど、経済的な負担軽減を図る。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標（KPI）	H30基準	R2実績	R3実績	R4実績	R6目標	達成状況
地域子育て支援事業	プレールーム利用数(人)	35,761	15,504	12,817	19,419	15,000	129.5%
	育児相談件数(件)	668	106	278	420	300	140.0%
	サークルルーム登録団体数(団体)	25	20	21	21	30	70.0%
一時預かり事業	保育所型の利用児童数(延べ人数)(人)	4,524	3,539	2,390	4,041	3,000	134.7%
	幼稚園型の利用児童数(延べ人数)(人)	4,272	4,053	3,745	2,844	4,055	70.1%
ファミリー・サポート・センター事業	登録会員数(件)	1,611	1,596	1,539	1,435	1,650	87.0%
	活動件数(件)	4,478	1,717	1,080	830	2,000	41.5%
子育て世代包括支援センター事業	相談件数(妊娠・出産・子育て)(件)	561	804	765	633	800	79.1%
	ケアプラン作成数(件)	344	373	416	425	452	94.0%
	産婦健康診査受診率(%)	—	92.3	94	96.7	100	96.7%
3人目の保育料等の無料化	市独自の無償化対象児童数(人)	275	247	252	228	270	84.4%
不妊検査・不育症治療助成事業	コウノトリ検査費助成件数(件)		59	116	102	130	78.5%

施策7

苫小牧の地域資源をいかした体験学習・地域づくりの推進



- ・豊かな感性と人間性を持つ子どもを育成するための体験学習の機会と環境の整備を図る。
- ・郷土とまこまいの魅力ある地域づくりを推進し、地元自慢・愛する心を育みます。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標 (KPI)	H30基準	R 2実績	R 3実績	R 4実績	R 6目標	達成状況
豊かな自然環境や文化をいかした体験プログラムの充実	体験プログラム参加人数(人)	10,179	5,500	5,705	7,047	9,500	74.2%
	体験プログラム実施回数(回)	228	155	133	160	200	80.0%
アウトリーチ推進事業	事業数(事業)	34	24	27	29	40	72.5%
苫小牧アートフェスティバル事業	ワークショップ参加者数(人)	571	—	—	616	1,000	61.6%
市民・団体研修派遣事業	研修派遣者数(人)	3	累計0	累計0	累計0	累計6	0.0%

施策8

「ワーク・ライフ・バランス」を重視した職場の整備



- ・ワーク・ライフ・バランスへの取組促進に向けた各種啓発を実施し、企業の従業員の意欲、能力、創造性を引き出して生産性の向上を図るとともに、優秀な人材の確保・定着への土壌をつくりだす。
- ・少子化の抑制、労働人口の確保など、社会全体の活性化を図る。
- ・北海道で初めて「イクボス宣言」をした本市の取組を民間企業へと水平展開するため、民間との合同により研修を実施する。

各種事業の進捗状況

※赤色枠は令和2年度をもって事業終了。

事業名・事業の内容	重要業績評価指標 (KPI)	H30基準	R 2実績	R 3実績	R 4実績	R 6目標	達成状況
ワーク・ライフ・バランス等推進事業	ワーク・ライフ・バランス等推進事業数(事業)	—	—	累計1	累計2	累計4	50.0%
官民合同研修事業	研修参加延人数(人)	—	—	—	—	100	—

3 地元の魅力を強化、暮らしやすさ発信で移住を促進

現状と課題

- 今後の人口移動をめぐっては、全国的に人口が減少する中で、他都市（札幌や首都圏）との競合が一層激しくなる可能性がある。
- これまで以上に本市の魅力や暮らしやすさをアピールし、「苫小牧市に移り住みたい」というイメージを維持・拡大していく必要がある。また、実際に地域コミュニティの活性化や生活利便性の向上など、生活環境の改善も併せて進めていく必要がある。

基本目標と 施策の基本的方向

- 本市出身者を本市に戻ってくる可能性のある層（移住のターゲット）として捉え、将来的なUターンにつなげる。
- 定住人口と交流人口に加え、その中間に位置する関係人口を増やすとの観点から、スポーツの振興、合宿誘致などを通じて本市に興味を持ち、繰り返し足を運んでもらえる機会を設ける。
- 進学や就職期に本市を離れた方が「郷土とまこまい」に戻ってきたいと思わせる環境づくりを推進する。

基本目標における数値目標

項目	H30基準	R2実績	R3実績	R4実績	R6目標	達成状況
転入者数（定住人口数）（人）	6,122	5,772	5,965	6,006	6,600	91.0%
観光入込客数（万人）	199.5	142	148	213.1	260	82.0%
「苫小牧市は住みやすい」と回答した人の割合（%）	33.1	—	—	—	40.0	—

基本目標

地元の魅力を
強化、暮らしやすさ
発信で移住を促進

施策の基本的方向

3-1

苫小牧出身者のネットワーク化支援

3-2

交流人口・定住人口の拡大支援

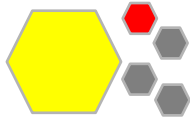
3-3

“とまごころ（地元自慢・愛する心）”の普及

3-4

関係人口の創出

施策9 苫小牧出身者への継続的な情報発信の拡充

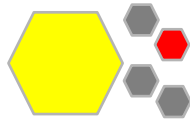


- ・本市出身者は、将来的に結婚や子育てを機にUターンする可能性があることから、本市が持つ様々な魅力を配信する。
- ・暮らしの情報や空き家情報、求人情報等をホームページやSNS（フェイブック等）、本市出身者が集う場を活用して発信し、出身者が気軽に地元の情報に触れられる環境を整える。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標（KPI）	H30基準	R2実績	R3実績	R4実績	R6目標	達成状況
旬のとまこまい情報の発信事業	ホームページアクセス数及びFacebookリーチ数(件)	8,969,733	115,16,324	16,080,853	13,738,386	17,000,000	80.8%
同窓会組織への情報発信	情報発信回数(回)	—	累計3	累計5	累計11	累計15	73.3%

施策10 移住者の受入れ体制の充実



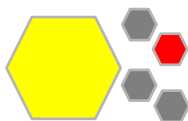
- ・移住希望者に対して、本市の生活環境や子育て環境などの情報や相談窓口の一元化を行い、効果的な情報発信と相談支援を行う。
- ・空き家の情報の整理・発信や空き家への入居支援を行う。
- ・本市への移住後の生活がイメージできるよう、移住希望者の要望に応じたオーダーメイド型の移住相談（市内案内）を実施する。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標（KPI）	H30基準	R2実績	R3実績	R4実績	R6目標	達成状況
移住情報発信事業	イベント等での情報発信者数(人)	54	累計56	累計109	累計136	累計250	54.4%
移住体験プログラム ～苫小牧オーダーメイド移住ガイド～	移住ガイド参加者数(人)	2	累計2	累計13	累計29	累計45	64.4%
	移住支援金支援者数(人)	—	—	累計4	累計11	累計25	44.0%
氷都とまこまい体感プログラム	氷都とまこまい体感プログラム参加者数(人)	—	—	—	累計8	累計30	26.7%

施策11

ご当地イベントを活用した交流人口の創出



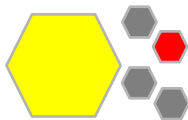
- 本市の貴重な自然や産業施設をいかしたイベントとして定着してきた「コスプレフェスタ」や、アニメ等のコンテンツを活用した新たな観光イメージをPRし、交流人口の更なる獲得につなげる。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標 (KPI)	H30基準	R2実績	R3実績	R4実績	R6目標	達成状況
とまこまいコスプレフェスタ	来場者数(人)	16,000	500	2,000	8,000	17,000	47.1%
とまこまいフィルムコミッション事業	ロケーション撮影数(件)	14	19	12	10	20	50.0%
アニメツーリズム推進事業	特設ホームページアクセス数(件)	—	17,624	12,099	20,890	18,000	116.1%
苫小牧都市再生コンテンツ創出事業	来場者数(人)	—	—	—	33,100	14,000	236.4%

施策12

縁結びコーディネート機能の充実



- 結婚を機とした移住者を増やすべく、苫小牧市内在住の男性又は女性と市外在住者（札幌市民など）とのマッチングを行う。
- （とましん結婚相談所と連携した）メンター機能を強化し、結婚希望者への支援を行う。

各種事業の進捗状況

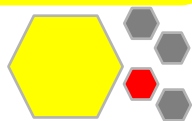
事業名・事業の内容	重要業績評価指標 (KPI)	H30基準	R2実績	R3実績	R4実績	R6目標	達成状況
とまこまい縁結びサポート助成事業	婚姻率(%)	4.82	4.64	4.24	4.17	6	69.5%
	とましん結婚相談所登録者の結婚数(組)	32	累計3	累計0	累計9	累計30	30.0%
届け出挙式	挙式回数(件)	4	累計4	累計5	累計6	累計20	30.0%

施策の基本的方向3-3

“とまごころ（地元自慢・愛する心）”の普及

施策13

郷土の魅力を伝える活動の推進



- 子どもから高齢者までの全ての市民が、本市の地域資源の魅力を知り、郷土とまごまいへの理解を深めるとともに、地元自慢・愛する心（とまごころ）の醸成につなげる。

各種事業の進捗状況

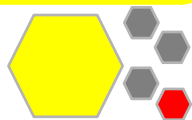
事業名・事業の内容	重要業績評価指標（KPI）	H30基準	R2実績	R3実績	R4実績	R6目標	達成状況
苫小牧版図柄入りナンバープレート	図柄入りナンバープレート交付数(件)	—	2,197	3,277	4,270	4,000	106.8%
とまチョップ水事業	とまチョップ水販売・配布本数(本)	92,000	64,272	61,104	74,178	75,000	98.9%
氷上スポーツ事業	スケートエンジョイスクール参加人数(人)	3,957	1,430	472	989	3,600	27.5%
	アイスホッケーコース参加人数(人)	594	309	158	773	600	128.8%
	スピードスケート体験教室参加人数(人)	276	138	205	236	250	94.4%
町内会スケートリンク経費助成事業	スケートリンク設置数(か所)	6	5	5	6	7	85.7%
国際アイスホッケー中学生交流事業	参加人数(人)	46	—	—	—	50	—

施策の基本的方向3-4

関係人口の創出

施策14

苫小牧との継続的なつながりを持つきっかけづくりの推進



- スポーツ合宿等を通じて、本市の「ファン」を増やし、地域の課題解決にも関わってもらえる地域外の人々とのネットワークを拡げる取組を推進します。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標（KPI）	H30基準	R2実績	R3実績	R4実績	R6目標	達成状況
ふるさと納税事業	リピーター率(%)	18.8	29.26	27.3	30.7	30	102.3%
はちとまネットワーク推進事業	アイスホッケー事業参加人数(人)	40	—	—	累計51	累計80	63.8%
スポーツ合宿等補助事業	スポーツ合宿件数(件)	155	28	62	69	160	43.1%
	スポーツ合宿宿泊数(泊)	10,726	2,399	2,651	5,662	12,000	47.2%
全国高等学校選抜アイスホッケー大会	出場団体数(団体)	28	—	累計26	累計48	累計100	48.0%
ワーケーション拠点構築事業	ワーケーションホームページアクセス数(件)	—	—	—	23,118	20,000	115.6%

4 産業競争力を高め、地域ブランド力を向上

現状と課題

本市の人口推移は製造業をはじめとする企業進出の影響が大きく、人口減少局面に突入した時代においては、更なる競争力の向上が喫緊の課題。

産業集積地である本市は、世界的な景気の影響や社会環境の変化により、常に（国際的な）地域間の競争にさらされていると言える。

基本目標と
施策の基本的方向

- 戦略的な企業誘致の推進及び進出企業に対するフォローアップを進める。
- 多様な産業の集積を推進し、産業の高度化を目指すとともに、地域間連携による産業振興を進める。
- 国際観光リゾートなどの新しい産業の誘致を図りつつ、豊かな自然環境との調和を図り、快適な都市環境を確保する。

基本目標における数値目標

項目	H30基準	R2実績	R3実績	R4実績	R6目標	達成状況
新規企業進出件数（5年間累計）（件）	累計16	累計0	累計3	累計7	20	35.0%
「働く場」としての魅力度（%）	40.5	—	—	—	50.0	—

基本目標

産業競争力を高め、
地域ブランド力を
向上

施策の基本的方向

4-1

進出・立地企業へのサポート機能の強化

4-2

多様な産業集積（高度化）の推進

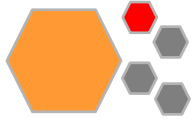
4-3

地域間連携の促進

4-4

充実した都市機能と豊かな自然の共生

施策15 進出・立地企業への支援強化



- ・ 立地企業が抱えている人手不足、人材確保等の課題やニーズに対して、継続的に意見交換・情報共有を図るとともに、課題解決に向けて連携・協力・支援を行う。
- ・ 外国人労働者をはじめ、外国籍市民の受入体制の充実、地域との共生を図るため、相談窓口を設置するほか、緊急通報時や救急活動時の多言語通話サービスを導入する。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標 (KPI)	H30基準	R2実績	R3実績	R4実績	R6目標	達成状況
事業拡大・販路拡大支援事業	展示会や商談会への出店経費の補助件数(件)	10	累計4	累計10	累計19	累計50	38.0%
人材確保支援事業	就職セミナーへの出店経費等の補助件数(件)	5	累計24	累計41	累計91	累計100	91.0%
職場環境改善事業	労働環境改善等のための経費補助件数(件)	19	累計27	累計31	累計70	累計100	70.0%
外国人相談窓口設置	サロン利用者数(人)	1,678	435	679	894	2,000	44.7%
離職防止等処遇改善事業	処遇改善企業数(件)	65	累計40	累計91	累計142	累計150	94.7%
緊急通報・救急活動時の多言語通話サービス導入	三者間同時外国語通訳及び多言語音声翻訳アプリ導入割合(%)	—	100	100	100	100	100.0%

施策16 地理的優位性をいかした企業誘致の促進



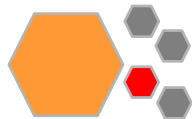
- 新規立地及び企業の設備投資を呼び込むために、必要なインフラ整備を行うとともに、企業のニーズに応じた助成金制度により企業活動を支援し、多様な産業分野における企業進出を促進する。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標（KPI）	H30基準	R2実績	R3実績	R4実績	R6目標	達成状況
新千歳空港の機能充実と国内・国際空港輸送ネットワークの拠点形成	国内路線(路線)	28	31	31	28	31	90.3%
	国外路線(路線)	19	27	—	24	34	70.6%
企業立地振興条例助成金	事業場設置助成金(千円)	252,943	176,557	168,159	233,412	304,494	76.7%
	雇用助成金(千円)	30,600	3,900	10,500	13,800	29,400	46.9%
	緑化助成金(千円)	—	0	0	0	10,000	—
苫小牧港管理組合負担金	貨物取扱量(外資)(千t)	17,550	—	16,034	15,791	22,144	71.3%
	貨物取扱量(内資)(千t)	89,895	—	88,743	92,263	89,606	103.0%

施策17

広域連携事業の推進



- ・ 東胆振定住自立圏における地域間の連携を促進し、本市が持つ都市機能と近隣自治体が持つ魅力や強み（豊かな自然・第一次産業等）を深掘りするとともに、その価値を内外に発信する。
- ・ 近年、多発する広域災害への備えを広域圏で進めるとともに、災害発生後の復旧・復興はもとより、経済活動の停滞（風評被害など）を回避するための取組を連携して実施する。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標 (KPI)	H30基準	R2実績	R3実績	R4実績	R6目標	達成状況
新千歳空港を核とした地域活性化の推進	新千歳空港旅客数(千人)	23,632	6,436	9,229	17,873	27,830	64.2%
広域連携による地域ブランド推進	地域ブランドの合同PR回数(回)	6	累計1	累計4	累計8	累計20	40.0%
防災体制の充実	備蓄品充足率(%)	79	92	94	95	100	95.0%

施策18

持続可能な都市機能及び自然と共生した国際観光リゾートの形成



- ・ 豊富かつ貴重な自然を観光資源とした、国際観光リゾートなどの新しい産業の誘致により、投資を呼び込む機能を高め、新規雇用を創出するとともに市内への移住を促進する。
- ・ Society5.0が掲げる新技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、持続可能な都市機能の整備として、市民や来訪者がストレスなく目的地への移動が可能となる、ICTを活用した交通サービス導入の検討を進める。
- ・ 近年、多発する広域災害から安全・安心を確保するため、市民への情報発信の強化に取り組む。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標 (KPI)	H30基準	R2実績	R3実績	R4実績	R6目標	達成状況
とまこまい版MaaS構築事業	地域課題の解決に向けた次世代モビリティに関するサービスの実装提供件数(件)	—	—	累計0	累計1	累計3	33.3%
危機管理に関する情報発信の強化	防災情報配信サービス(メール)登録者数(人)	—	4,582	5,228	5,402	6,000	90.0%
	防災情報配信サービス(LINE)登録者数(人)	—	—	2,790	3,487	4,000	87.2%
防災行政無線整備事業	屋外スピーカー設置基数(基)	25	127	127	127	130	97.7%
国際リゾートの形成	訪日外国人宿泊延べ人数(人泊)	35,780	778	1,218	6,598	42,560	15.5%
ごみ分別アプリ事業	アプリダウンロード数(%)	—	2	5	7	20	35.0%

施策19 ゼロカーボンシティ実現に向けた取組の推進



- 2021（令和3）年8月、2050（令和32）年までにCO2の実質排出量ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」へ挑戦することを宣言しました。市民、事業者、市が連携・協力の上で必要な環境行動を実施し、ゼロカーボンシティの実現を目指す。
- 本市の立地環境をいかした再生可能エネルギーの導入促進、水素の取組のほか、本市で行われているCCUS・カーボンリサイクルの様々な実証事業を軸に、ゼロカーボンと産業振興の両立を目指す。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標（KPI）	H30基準	R2実績	R3実績	R4実績	R6目標	達成状況
ゼロカーボン推進啓発事業	出前講座や体験学習会などの実施件数	—	累計10	累計23	累計48	累計38	126.3%
ゼロカーボンハウス促進補助事業	ゼロカーボンハウス促進補助金の補助件数	—	累計175	累計308	累計488	累計1,644	29.7%
ゼロカーボン対策推進企業の相談・支援	ゼロカーボン対策推進企業の支援件数	—	—	—	—	累計50	—

04 | 新たな総合戦略の策定について

1. デジタル田園都市国家構想総合戦略について（令和4年12月23日閣議決定）

- ・ テレワークの普及や地方移住への関心の高まりなど、社会情勢が大きく変化している中、デジタルの力を活用して地方創生を加速化・深化し、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す。
- ・ 東京圏への過度な一極集中の是正や多極化を図り、地方に住み働きながら、都会に匹敵する情報やサービスを利用できるようにすることで、地方の社会課題を成長の原動力とし、地方から全国へとボトムアップの成長につなげていく。
- ・ デジタル技術の活用は、その実証の段階から実装の段階に着実に移行しつつあり、デジタル実装に向けた各府省庁の施策の推進に加え、デジタル田園都市国家構想交付金の活用等により、各地域の優良事例の横展開を加速化する。
- ・ これまでの地方創生の取組も、全国で取り組まれてきた中で蓄積された成果や知見に基づき、改善を加えながら推進していくことが重要である。

施策の方向

デジタルの力を活用した地方の社会課題解決

デジタルの力を活用して地方の社会課題解決に向けた取組を加速化・深化

- 地方に仕事をつくる
- 人の流れをつくる
- 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 魅力的な地域をつくる

地方のデジタル実装を下支え

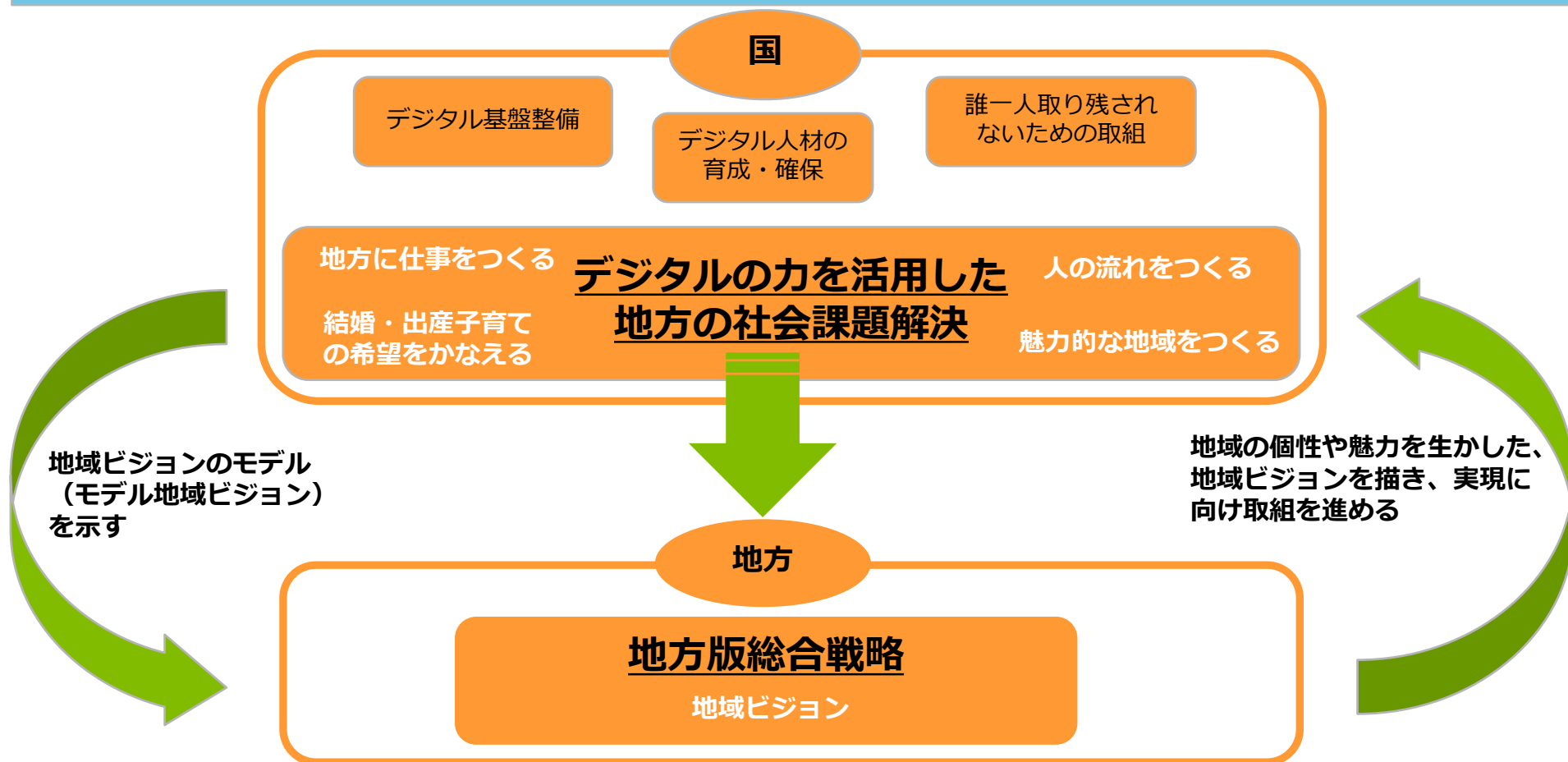
デジタル実装の基礎条件整備

デジタル実装の前提となる取組を国が強かに推進

- デジタル基盤の整備
- デジタル人材の育成・確保
- 誰一人取り残されないための取組

2.新たな総合戦略の策定について

- ・国においては、**第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を抜本的に改訂し**、2023年度を初年度とする5か年の**「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を新たに策定し**、令和4年12月23日に閣議決定された。
- ・地方においては、**国の総合戦略を勘案し、地方版総合戦略を策定するよう努めなければならないことと**されている。
- ・本構想の実現に当たっては、**国と地方が連携・協力しながら推進することが必要**であり、**新型コロナウイルス感染症の感染拡大やデジタル技術の浸透・進展**など時宜を踏まえ、**地域の個性や魅力を生かした地域ビジョンを再構築した上で、地方版総合戦略の策定、改訂に努める必要**がある。



3.策定にあたっての基本的事項について

●地域ビジョンの再構築

地域ビジョン（目指すべき将来像）について、デジタル化やアフターコロナ等の社会情勢を踏まえ、地域の個性や魅力を生かした地域ビジョンとして再構築する。

（例）

- ・スマートシティ・スーパーシティ
- ・SDGs 未来都市
- ・産学官協創都市 など

●デジタル技術を活用した取組の追加・検討

現行の総合戦略に掲げている各施策について、デジタル技術等を活用することで、さらに発展させるとともに、新たなデジタル技術を活用した施策・取組の追加を行う。

（現在の総合戦略に掲げているデジタル関連施策）

- ・ワーケーション拠点構築事業
- ・とまこまい版MaaS構築事業
- ・ごみ分別アプリ事業 など

今後、上記を踏まえた新たな計画を策定するにあたり、各分野の皆様から忌憚のないご意見をいただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

4.今後のスケジュール（案）について

Step	日程	会議の内容	国・北海道
【第1回】 戦略会議	7月	<ul style="list-style-type: none"> ● 第2期総合戦略の検証 ● 第3期に向けた取組（国、道の動向） 	○令和5年末（国） ・デジタル田園都市国家構想総合戦略改訂 ○5～7月 北海道創生協議会（北海道） ・次期戦略骨子策定に向けた議論 ・市町村・団体意見照会
【第2回】 事務局骨子作成	8月	<ul style="list-style-type: none"> ● 第3期人口ビジョン・総合戦略骨子の説明 	—
【第3回】 戦略会議 （素案）の検討	10月	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民アンケート結果の報告 ● 第3期人口ビジョン・総合戦略（素案）の説明 	○8～10月 北海道創生協議会（北海道） ・次期戦略・人口ビジョン素案策定に向けた議論 ・パブリックコメント、市町村・団体意見照会
パブリックコメント実施	11月～12月	—	○11月 北海道創生協議会（北海道） ・次期戦略・人口ビジョン原案策定に向けた議論
市議会提出	12月	—	○冬頃（北海道） ・次期戦略・人口ビジョン決定
【第4回】 総合戦略 （原案）の検討	1月	<ul style="list-style-type: none"> ● パブリックコメント結果報告 ● 第3期人口ビジョン・総合戦略（原案）の説明 	—
市議会提出	2月	—	—
【第5回】 報告（書面会議）	3月	<ul style="list-style-type: none"> ● 第3期人口ビジョン・総合戦略の報告 	—

※ 完成版の公表は令和7年4月1日を予定しております。